

令和6年度

第1回上牧町協働のまちづくり公募型補助金審査判定委員会

議 事 録

日 時 令和6年7月5日（金） 午後2時00分から
場 所 上牧町役場 2階 第2会議室
委 員 小林三紘委員、濱野進委員、小島奈美委員、福井希実委員、中川恵友委員（総務部長）、吉川昭仁委員（都市環境部長）
事 務 局 中本課長、高野係長、中村主事
次 第 ①開会
②委嘱状交付/委員長・副委員長の選任
③申請者によるプレゼンテーション
④補助金交付の適否の審査・判定
⑤閉会

◆開会

◆申請者によるプレゼンテーション

【申請事業：上牧町在住外国人交流事業】

- ・事務局から審査対象事業の概要説明
- ・申請団体代表者によるプレゼンテーション

<申請事業概要>

事 業 名：上牧町在住外国人交流事業

団 体 名：Together

事 業 費：138,700円

補助対象経費：108,700円

補 助 金 額：108,700円

<各委員からの意見質問等>

委 員：今回2回目の補助金申請であるが、団体活動歴について教えていただきたい。

申請者：前回（令和5年度）申請時に立ち上げた団体であり、毎月会合を行っている。また、勉強会や3か月に1回程度イベントを実施しているところである。

委 員：「上牧町在住外国人交流事業」という事業名であるが、参加している外国人は上牧町の在住者がその大半か。

申請者：そのとおりである。町内企業在勤のかたが多く、インドネシア、ミャンマー、フィリピン出身者が参加者である。

委 員：町内在勤のかたは特定技能制度での在留者か。

申請者：技能実習制度での在留者である。

委員：上牧町在住の外国人は100人以上ということであるが、参加者のなかに中国出身者はいるか。

申請者：参加者のなかにはいない。接点の少ない町内在住外国人は多くいるので、今後交流していきたいと考える。

委員：災害時の課題として言語の壁等が考えられるが、災害対応に関する活動はされているか。

申請者：未着手であるが、今後先行事例等を参考にし、避難経路や避難所の確認を行う所存である。

委員：自治会行事に同行とは具体的にどのようなことをするのか。

申請者：参加者が居住する区域の自治体で開催されるイベント等に参加し、積極的に交流を図るものである。

委員：勉強会等実際に参加されるかたは何名程度いるか。

申請者：10名程度である。

委員：町内在住外国人数は100名以上ということであるが、今後参加者を増やすための取組は計画されているか。

申請者：広報活動として、チラシの作成を計画している。

委員：町内在住外国人が勤めている企業等から参加の勧奨をしてもらうというのも方法の一つだろう。

申請者：企業の職員（日本人）と情報共有をするほか、研修生を指導するメンターが取りまとめ役となり、新たに入国されたかたがいれば、当団体を紹介いただいているところである。

委員：勉強会やイベントは年間何回程度実施の予定か。

申請者：年間4回を予定しており、勉強会の内容としては就労制度や生活支援についてを考えている。

委員：昨年度と比較し、参加者は増加しているか。

申請者：増加している。

委員：会則の10条より、寄附金や助成金等を運営費とするということであるが、上牧町以外の補助金等を受けているか。

申請者：受けていない。

委員：安定した事業実施・運営のためにも、運営費については今後工夫が必要だろう。

申請者：安定した運営をされている他団体を今後参考にしていく。

委員：参加者が勤めている企業に賛助金のようなものを依頼したことはあるか。

申請者：ない。

委員：会員名簿に上牧町社会福祉協議会のかたの名もあるが、同会からの補助はないのか。

申請者：そういった制度があることは認識しているところであるが、申請はしていない。

委員：収支予算書に旅費の記載があるが、町内施設の案内が主な使用用途となるか。

申請者：そのとおりである。

委員：その際に、災害時の避難経路や避難所について周知するとよいだろう。

委員：今後実施される勉強会やイベントの感想等を蓄積されるとよいだろう。

<審査結果>

内容を確認した結果、適正であると認められた。

◆閉会

終了 午後3時00分